

さらなる雇用創出をめざして新事業に意欲
Webショップの直販事業で躍進、

平成22年度 採択事業



藤田昌己さん

下請け中心から直販へ

昭和39(1964)年の創業以来、約50年にわたりタオル一筋に歩んできた三和タオル製織株式会社。同社は製織から縫製、プリント・刺繍加工、パッケージングまで、タオル製造のほぼ全工程を自社工場で行う一貫生産体制が自慢です。分業がほとんどであるこの業界において、一貫生産による納期短縮や機動力は大きな強み。安価な外国産製品の隆盛で各界が打撃を受ける昨今、同社独自の生産体制を活かしたWebショップ開設で状況を打開するなど、下請け中心から直販へと間口を拡大する積極的な事業改革で、時代の変化に対応しています。

自社ブランド『たおる小町』の立ち上げやWebショップの開設等、新事業推進の先導役を担うのは4代目の藤田昌己さんです。藤田さんは若く柔軟な発想と思考で、父である代表取締役の文昭さんをサポート。同社は平成21(2009)年に京都商工会議所主催の「中小企業のためのホームページコンテスト京都2008」で審査委員特別賞を受賞、また平成22(2010)年には京都府から「知恵の経営」実践モデル企業の認証を受けていますが、藤田さんはこれらの事業に大きく貢献しました。



『たおる小町』の製品

理念も新たにファンド挑戦

「知恵の経営」に挑戦した際、同社には企業理念や事業方針など、基盤となるものが何もなかったといいます。創業当時は製織のみでスタートしたのが、次第にプリント・刺繍等の加工、箱詰め・袋入れのパッケージングも手掛けるように。さらにWeb直販の導入と、その都度、時代のニーズに応じて新規事業に着手してはきたものの、背景に「やむを得ず」感があるのは否めません。「これまでは『仕事があれば安心』という軽い気持ちでできたけれど、それでは先の見通しが立てられない。今後の方向性を真剣に見直し、基盤をしっかりと固め直したうえで、そこから再始動しようと考えました」。

このとき新たに掲げた企業理念は『喜びをつくる、つなが

知恵と卓越した技術

ITの活用

りを紡ぐ、土地に生きる』。製造業だからつくすることにこだわりたい、ものをつくるのは人、人を雇用することが大事…。そんな流れから、常々「事業の最大目標は雇用の創出だと思っている」藤田さんは、一人でも多くの雇用を増やすための方策を思案しはじめます。そして、ファンドへの挑戦を決意。かねてより展開していたオーダータオル専門サイト『オリジナルタオル作りま専科』での“名入れ刺繍”加工事業でファンドに応募し、採択されました。



ファンド支援で設置したスタジオでの撮影風景

予期せぬ事態で方向修正

今回の事業は、小型刺繍機による小ロットの名入れ刺繍加工を可能にすることで、オーダータオルの付加価値を強化し、新たな製品展開に結びつけていこうというもの。同社が現有する刺繍設備は大量生産向けの大型機であるため、小ロット注文には対応できません。しかしそれが可能になれば注文増加、売上アップが見込め、事業の拡大は雇用の創出にも繋がります。

藤田さんはファンドの採択決定と同時に、さっそく準備に取り掛かりました。刺繍機の購入、商品撮影用のスタジオ設置と機材の購入、そして刺繍加工担当の社員も一名雇用。ところが「いよいよ本格始動」という矢先に、東日本大震災が起こったのです。「これで東北地方からの注文が減るのは明らか。もう、新事業どころではなくなり、一からの見直しを余儀なくされました」。

刺繍事業は一旦ペンディングとなり、ひとまずはファンドの支援で新設したスタジオを活かす方向で軌道修正することに。旧工場の空きスペースを利用した小さなスタジオですが、これが思いのほか大活躍。商品撮影一つをとっても表現や演出のバリエーションが広がり、Webショップは随分充実しました。ところがまたも予期せぬ事態が発生。今度は夏の猛暑により、高齢の技術者数名がダウンしてしまいます。ベテランが抜けた穴を埋める者がいない、技術の継承ができていな

い…。「製造業にとって致命的な状況」に陥りました。



趣向を凝らした表現が自慢のホームページ

ピンチをチャンスに変えて

次代への技術継承、企業の若返りが必要なことは、日頃から気になっていたという藤田さん。「専門的な技術は、時間をかけて継承していかなければならない。いつか始めなければと、ずっと気掛かりだったのですが、なかなか取り組めないまま最悪の事態に直面してしまいました」。

最大の要因は、猛暑。しかし、幸か不幸かWebショップが軌道に乗り、注文が急増していたことも、ベテラン世代には過酷だったようです。「忙しすぎて限界でした。企業にとっては、必ずしも『売れたら成功』ではないということを感じた」と藤田さん。現在は受注を制限して、生産量とのバランスを調整し直しているそうです。

昨年は震災や猛暑の影響が一気に襲いかかり、同社にとっては試練の年になりました。しかし藤田さんは「今回のピンチは、いい教訓になった。今後の展望もはっきりしたし、ある意味チャンスだと思う」と前向きです。ファンドの助成で購入した刺繍機は、今後の商品開発に繋げていく予定。スタジオ設備は非常によく活躍しています。「今年の最大課題は、やる気のある人を採用して育成し、基盤をしっかりと強化すること」。現在、企業リフレッシュ化の真っ最中です。

事業概要

三和タオル製織 株式会社
http://www.towel-komachi.co.jp/
代表：藤田文昭
業種：タオル製造・加工・販売
創業：昭和39(1964)年 設立：昭和57(1982)年
住所：〒620-1425
京都府福知山市三和町菟原下166
TEL：0773-58-2218 FAX：0773-58-2249